

JA全農えひめ情報

みらいへ

6

2016・June

■特集

「農業者所得増大チャレンジ事業」を展開



愛媛の酒蔵めぐり

12

日本心、媛一会



▶「膳」は相手に向きを替えて配ることから、お客様に喜んでもらう家訓の象徴として、逆さの「膳」の書を飾っている

▶4代目の現社長・武田吉雄さんと、ご子息で杜氏を務める武田昇三さんと

武田酒造株式会社

| | |
|------|-------------------------|
| 代表銘柄 | やまとごころ ひめいちえ 日本心、媛一会 |
| 創業 | 1904年（明治37年） |
| 代表者 | 代表取締役社長 武田 吉雄 |
| 住所 | 西条市三芳1507 |
| TEL | 0898-66-5002 |

▲（右）「日本心 純米辛口 紅」。端麗辛口でなく、日本心流の芳醇タイプ。松山三井の真髓を極めた酒。（中）「媛一会 旨口純米」。幅のある味わいと後切れの良さが特徴。旨味、酸がコラボした媛一会を代表する酒。（左）「日本心 しずく媛 純米吟醸」米の香、旨味、酸の三拍子揃ったやさしい口当たりの酒

酒の仲買をはじめ萬屋を営む初代・武田近平氏は日露戦争の年、明治37年に酒造りの夢を実現させます。ヤマトゴコロと読む銘柄「日本心」には近平氏の思いがあります。自分より相手のことを優先する大和魂、お客様にいいものを提供して喜ばれる、地域に根ざした酒蔵として継承しています。

武田酒造一筋50余年の伊方杜氏・上田益男さんの下で修業を積んだ武田昇三さんが平成24年から製造責任者、次代のオーナー杜氏です。こだわりの酒に、昔ながらの山廃仕込みがあります。通常の速醸仕込みに比べて倍以上の時間を要しますが、数値では表に出ないごつごつとした力強い味わいに根強いファンを持つ酒です。銘柄「媛一会」は手締めの小槽搾りで、ていねいに。雑味の少ない口当たりのいいやさしさを醸します。「緑」はもち米四段仕込みの酒。どれも厳しい指導で培った希少価値の高い技術です。若き杜氏は「まだ4年目、まだ未熟。わからないことは上田さんの指導を仰ぎつつ」と、偉大な師が控える安心感が挑戦を後押ししています。

年に一度の「朝しほり」はおお客様が無濾過の生酒を試飲できる大イベントです。裏方杜氏も表で出迎え、生の「ご意見」を拝します。今年の来場者数は前年の評価と真摯に受け止め、また「うまい」の笑顔に対面、喜ばれる酒造りの原点として25年続いています。

めぐり〜ど

June 2016

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



じめじめとした梅雨の時期でも、うれしくなるのはおばあちゃんと子どもたちとラッキョウを漬ける家仕事の日です。泥を落として、皮をむいて、カエルの鳴き声をBGMに、輝く白さのラッキョウが姿を現せばテンションもマックスです。驚異の威力を発揮する自然派栄養源・ラッキョウで夏の暑さを乗り切りましょう。

●表紙：らっきょう漬け
はら ふみ(イラストレーター)

※「めぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.186

愛媛の酒蔵めぐり⑫〜武田酒造(株)

2

〈特集〉「農業者所得増大チャレンジ事業」を展開

農家手取り最大化と
愛媛農業の振興に貢献していきます。

8

THE・ねっとわーく

9

統計BOX

10

ふるさと ESSAY VOL.254

目には見えない
不思議な縁に導かれて
塩崎 剛さん

12

TOPIC NEWS

15

なんでもBOX

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉豚ロース肉 (ふれ愛・媛ポーク)

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画
<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>
 ※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料
<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)
<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)
<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)
<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス
<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)
<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

農家手取り最大化と 愛媛農業の振興に貢献していきます。

J A全農えひめは、平成28年度から、J Aグループ自己改革の最重点実施分野である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」（共通目標：販売品取扱高の拡大）の実現に向けて、耕種事業において関係部門の連携を強化し、「農業者所得増大チャレンジ事業」を展開しています。

この事業は、平成25年度から3年間取り組んだ「トータルアグリード事業」を拡充・強化したもので、マーケットイン（実需者ニーズ）に基づく生産・販売事業方式への転換、トータルコスト低減等の実践、多様な農業者ニーズへの対応を重点事項として、農家手取り最大化と愛媛農業の振興に貢献していきます。

事業方針・目的

J A全農えひめは、「農家組合員の所得確保と愛媛農業の活性化」という使命のもと、平成16年度から「生産・販売・購買一体事業」（3期9か年）、平成25年度から「トータルアグリード事業」（1期3か年）を展開してきました。特に「トータルアグリード事業」では、販売に重点

をおいたトータル戦略として企画販売・直販の拡大に取り組むとともに、産地基盤の維持拡大・担い手への総合支援に努め、企画販売・直販の拡大（3年間で3・6億円⇨園芸品目販売高に占める割合が0・5%増）、ビジネスモデル品目を中心とした生産拡大（米麦では「にこまる」など、果実では「紅まどんな」「甘平」、野菜では「きゅうり」「さといも」「加工業務用玉ねぎ」など）、地域農業

戦略の実践支援、J A T A Cによる担い手支援などを行って一定の成果・評価を得ることができました。平成28年度からは、耕種事業関係部門の連携を強化し、これまで取り組んできた事業内容をさらに拡充・強化した「農業者所得増大チャレンジ事業」に取り組むこととしました。「農業者所得増大チャレンジ事業」では、J Aグループ自己改革の最重点実施分野である「農業者の所得増

図1 農業者所得増大チャレンジ事業の概要

販売方式の改革 × 生産性の向上 - コストの低減 = 農業者の所得増大 → 農業生産拡大

| | | |
|--|--|--|
| <p>マーケットインに基づく 生産・販売事業方式への転換</p> <p>【販売品取扱高】476億円</p> <p>〈生産振興・産地づくり〉 ○農地のフル活用 ○重点品目拡大 ○新たな需要への対応</p> <p>〈販売事業の強化〉 ○共販量・企画販売・販路の拡大 ○知財活用による高付加価値化</p> | <p>トータルコスト低減の実績</p> <p>コスト低減+生産性向上+省力化</p> <p>〈生産流通コストの引き下げ〉 ○価格メリット創出と弾力的価格設定 ○適正施肥・低コスト資材の普及 ○広域物流・広域選果体制の確立</p> <p>〈生産性の向上〉 ○収量・品質向上・省力化技術・資材の普及</p> | <p>多様な農業者ニーズへの対応</p> <p>〈県域担い手サポートセンター〉 ○担い手総合支援 ○JAの産地づくり支援 ○JAの人材育成支援</p> <p>○出向く活動の部門連携強化 ○労働力支援体制の対応</p> |
|--|--|--|

【対策要領による支援】①生産振興・担い手支援対策、②コスト低減対策
【県域機能強化による支援】①県域担い手サポートセンター設置、②県域での労働力支援体制の整備、③新規作物・重点品目・営農体系の実証、④機能性成分表示制度の活用、⑤広域集荷・選果体制確立の支援

| | | |
|--|--|---|
| <p>〈米麦〉にこまる・ハルヒメボン ○水田フル活用／収量・品質向上対策 ○米の食味向上／○次世代品種の実証</p> | <p>〈肥料・農薬・園芸資材〉 ○低コスト肥料・農薬・ハウスの普及 ○肥料満車・農薬担い手直送の対応 ○土壌診断による土づくり・適正施肥 ○収量・品質向上・省力体系・資材の普及</p> | <p>〈農機〉 ○重点機種・型式普及と中古流通促進 ○農機の延命・効率化 ○作物別機械化一貫体系の提案</p> |
| <p>〈果実〉温州みかん・ゼスプリキウイ(G3) ○生産量維持／○ゼスプリG3栽培実証 ○企画販売・ギフト・輸出推進</p> | <p>〈段ボール〉 ○予約精度向上によるメリットの最大化 ○機能性段ボール等の企画提案</p> | <p>〈耕種事業共通〉 ○労働力支援体制の整備 ○食の安全・安心確保対策 ○6次産業化支援 ○JA・行政・関係機関との連携</p> |

大「農業生産の拡大」（共通目標・販売品取扱高の拡大）の実現に向けて、マーケットイン（実需者ニーズ）に基づく生産・販売事業方式への転換、トータルコスト低減等の実践、多様な農業者ニーズへの対応を重点事項として、JA・農業者への支援や県域機能の強化によるJA事業の補完・支援に取り組み、農家手取り最大化ならびに愛媛農業の振興に貢献していきます。

事業期間は平成28年度から平成30年度までの3か年で、事業目標として販売品取扱高（食糧・園芸）を平成30年度には476億円に拡大する計画です。

事業展開にあたっては、①マーケットイン（実需者ニーズ）に基づく生産・販売事業方式への転換（生産振興・産地づくり+販売力強化）、②トータルコスト低減の実践（コスト低減+収量・品質向上+省力化技術）、③多様な農業者ニーズへの対応（担い手総合支援+JAの産地づくり支援+JAの人材育成支援）を柱に取り組みます（図1）。

マーケティングインに基づく
生産・販売事業方式への
転換

1. 米麦

コシヒカリ・あきたこまち・ヒノヒカリ・マンネンボシを重点振興品目とし、にこまる・ハルヒメボシを最重点対策品目として位置づけ取り組めます。

生産面では、水田フル活用を進める中で、①需要に応じた売れる米・麦・大豆づくり、②現行の耕作面積をフル活用するための裏作・転作品目の作付推進と進捗状況の管理、③生産資材部門と連携して省力栽培技術推進および収量・品質向上対策による収益性の改善でトータルコスト低減に取り組めます。

売れる米麦づくりでは、「にこまる」を中心に「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」とともに特A獲得をめざし、米の食味向上に向けて、食味・品質分析結果と栽培概要の解析、生産資材部門との連携による良食味・高品質・安定生産の栽培体系の確立と生産推進に取り組めます。

「にこまる」は(株)ひめライスと連携し、テレビCMや販促資材を作成活用するなど認知度向上と販売拡

大に取り組めます。

はだか麦の「ハルヒメボシ」は、本県への栽培適性の検討を進めながら健全種子生産量を基準に、平成32年度での品種転換を目標に取り組むとともに、関係機関と連携し愛媛県産麦のブランド化を進めます。

また、行政等関係機関と連携し、本県の栽培条件に適応した次世代品種の開発に取り組めます。28年度は、拡大する業務用米需要に対応するため、実証試験を実施します。

2. 果実

果実では、温州みかん・いよかん・愛媛果試第28号・ゆず・くりを重点振興品目、温州みかん・ゼスプリキウイ(G3)を最重点対策品目として位置付け、生産・販売対策を講じていきます。

生産面では、放任園、加工誘導対策事業などを活用するほか、県域での労働力支援対策を行い、生産量の維持を図ります(温州みかんの栽培面積・平成27年産4,679ha↓平成30年産4,352ha)。温州みかんは、「高品質果実生産支援対策事業」の活用や肥料農薬部門との連携により土壌診断・分析に基づく土壌改善を通じて、品質および正品率(反収)の向上を図ります。また、マルチ被覆及びファイガロン散布による着果量

の調整と生育後期(浮皮防止対策含む)の品質向上に取り組めます。正品率を69%に上げることで、面積は減少しても出荷量6万tを維持していきたいと考えています。極早生温州みかんは、栽培面積10%の削減と優良系統への更新を推進します。

また、ゼスプリキウイ(G3)の栽培実証試験等を実施し、導入の検討・推進を図ります。

販売面では、果実需給調整対策事業による下等級品の市場隔離(温州みかん)を行うとともに、輸出事業や機能的表示食品登録等を最大限に活用し、有利販売に繋がります。また、企画販売による販路拡大および有利販売とギフト企画を柱とした県産品の販売拡充、店頭試食宣伝販売やマスコミ等のPR記事掲載による販売量の拡大を目指します。愛媛チームとして品質の高位平準化、施設の有効活用によるコスト削減等を図るため、県内JA間での広域選果について主体的に検討します。

3. 野菜花卉

重点振興品目として、玉ねぎ、きゅうり、トマト、なす、ピーマン、里芋、いちご、レタス+枝豆、最重点対策品目として、玉ねぎ、里芋、レタス+枝豆を位置付け、生産振興と販売対策を連動して取り組めます。

表1 米麦目標

| 項目 | 平成27年度実績 | 平成30年度目標 | 備考 |
|----------|----------|----------|----------|
| 米作付面積 | 14,920ha | 15,000ha | 水田活用米穀含む |
| 米集荷数量 | 14,127 t | 16,500 t | 水田活用米穀含む |
| 麦作付面積 | 1,900ha | 2,100ha | |
| にこまる面積 | 1,900ha | 1,700ha | |
| ハルヒメボシ面積 | 151ha | 800ha | |

表2 果実目標

| 項目 | 平成27年度実績 | 平成30年度目標 | 備考 |
|-------------|---------------------|-----------------------|---------------------|
| 総販売高 | 33,695百万円 812百万円 | 34,333百万円 1,008百万円 | 果実課 直販課 |
| 契約取引等 | 387百万円 812百万円 | 450百万円 1,008百万円 | 企画販売(あんぼ柿除く) 直販課 |
| 温州みかん販売数量 | 49,195 t | 60,000 t | |
| 極早生結果樹面積削減 | 722ha | 698ha | 結果樹面積 |
| ゼスプリキウイ(G3) | | 5ha | 栽培実証 |

表3 野菜目標

| 項目 | 平成27年度実績 | 平成30年度目標 | 備考 |
|--------|--------------------|--------------------|--------------|
| 総販売高 | 7,162百万円 290百万円 | 8,754百万円 295百万円 | 野菜花卉課 直販課 |
| 契約取引等 | 311百万円 290百万円 | 386百万円 295百万円 | 企画販売 直販課 |
| 玉ねぎ取扱高 | 117百万円 | 177百万円 | 冷玉+加工業務用 |
| 里芋取扱高 | 511百万円 | 651百万円 | |
| レタス+枝豆 | | 1ha規模を10名 | モデル実証 |

生産面では、果菜類の生産面積維持、冬春野菜露地品目の生産面積拡大(水田フル活用対策)とともに、省力化(機械化一貫体系の推進、生産指導と併せた施肥防除、反収向上対策)とコスト支援(新規作付苗助成、生販マッチング・担い手支援要領の活用)に取り組みます。

里芋は面積120ha、共販率向上により3、100tの集荷を目標に取り組みます。レタスの資材代を枝豆でカバーしセットで推進するレタス+枝豆は、ストリップレタスによる省力・低コスト化と枝豆の出荷調整作業の省力化による増反を通じて収益確保をめざすモデル実証を実施

します。

また、加工業務用野菜は玉ねぎを中心に、省力化と支援要領を活用した新規作付苗助成などコスト支援を通じて生産面積拡大に取り組みます(玉ねぎ生産振興目標18ha)。

販売面では、多元的販売の拡充と生産振興につながる販売企画提案を進めるとともに、加工業務需要の拡充および買取など直販センター機能を活用した取り組みを進めます。また、生産流通体制の効率化に向けて、東予地区の里芋をスタートとして広域選果体制の確立により販売価格のアップと流通コストの削減を図るとともに、レタス+枝豆では業務用レタスと枝豆の出荷調整作業の省力化対策に取り組みます。

トータルコスト低減等の実践

トータルコスト低減に向けて、肥料・農薬・園芸資材・農機・段ボールの生産流通コストの引き下げと生産性向上、省力化(労働費削減)を進めていきます。

肥料・農薬・被覆資材・段ボールでは、予約結集による低コスト供給を図ります。また、低コスト規格品

や大型規格、肥料満車・農薬担い手直送等の物流合理化によるコスト削減、年間予約・早期予約の奨励等により、包括的に生産流通コストの引き下げに取り組みます。

生産性向上に向けて土壌診断に基づき土づくりを推進するとともに、省力化・効率化となる農機・資材の提案、省力化に向けた各種研修を実施します。

1. 肥料農薬

【コスト低減対策】

- (ア) 低コスト肥料の開発・普及
- (イ) 系統独自農薬、大型規格農薬、ジェネリック農薬の普及拡大
- (ウ) 肥料満車直送や農薬担い手直送等の担い手ニーズへの対応

【生産性向上対策】

- (ア) 土壌診断に基づく土づくりと適正施肥
- (イ) 生育調査や病害虫発生予察情報による適期適正防除の励行
- (ウ) 実証試験、普及試験等の実施による収量・品質技術の向上
- (エ) J A 指導員や生産者の技術向上のための講習会、研修会等の開催

【労働費削減】

- (ア) 肥効調節型肥料や流し込み肥料・農薬等の省力技術品の開発・普及

- (イ) 「苗箱まかせ」や「温州一発肥料」「播種時同時処理」等、省力営農体系の実証・普及
- (ウ) 無人ヘリ散布による省力化

2. 園芸資材

【コスト低減対策】

- (ア) 被覆資材加工品における低コスト供給に向け、重点銘柄を中心とした取り組みによる予約率並びにシェア拡大
- (イ) 規格型低コストハウスによる施設園芸の掘り起こし（直売所・生産者部会）
- (ウ) 大口引取メリットによる、園芸資材全般のコスト低減策の取り組み

【生産性向上対策】

- (ア) 営農部門および J A の生産振興対策に連動した施設園芸産地の拡大（ハウス補償制度の活用）
- (イ) J A ・県域 T A C との連携・協力による担い手への情報提供・導入普及ならびに新規増反に係る園芸資材の供給強化

3. 農機

【コスト低減対策】

- (ア) 安価な農機の取扱拡充（J A グループ独自型式等の重点機種対策による取扱拡大と重点型式早期推進による農家メ

リット還元)

- (イ) 中古農機の流通促進（中古農機情報の登録拡充・定期的発信による成約促進）
- (ウ) 機械の延命と効率利用（担い手農家の大型格納整備に対する助成）

【生産性向上対策】

- (ア) 新技術・新製品情報の提供
- (イ) 省力化・効率化機械の展示会・実演会の開催
- (ウ) 作物別機械化一貫体系の提案

4. 段ボール・出荷資材

【コスト低減対策】

- (ア) 年間予約目標の精度向上によるメリット最大化の追求
- (イ) 製函試験・輸送試験等の実施

【生産性向上対策】

- (ア) 営農部門と連携した省力・有利販売につながる新規資材の企画提案（機能性ダンボール等）

多様な農業者ニーズへの対応

(1) 耕種部門の連携強化による農業者の所得増大・農業生産の拡大支援

各部門の支援対策要領に加えて、

表4 農業生産の拡大・担い手総合支援目標

| 項目 | 平成27年度実績 | 平成30年度計画 | 備考 |
|----------|-------------|-------------|----------|
| 産地づくり | 8JA・50企画 | 10JA・60企画 | 支援要領 |
| 労働力支援 | 6JA | 10JA | 取組JAへの支援 |
| 経営体訪問 | 62経営体(17法人) | 80経営体(20法人) | 県域による訪問 |
| 新規・若手訪問 | 5人 | 10人 | 同上 |
| TAC活動活性化 | 5JA | 7JA | STEP6以上 |

新たに「生販マッチング・担い手支援要領」を策定し、耕種部門が連携して農業者の所得増大・農業生産の拡大支援に総合的に取り組めます。「生販マッチング・担い手支援要領」では、TAC活動に取り組みJAならびにTACシステムに登録された担い手を対象として、産地づくり、マーケティング調査や新技術・

新品種の導入実証、生産性向上資材の普及、新規就農予定者育成・労働力支援体制の確立・強化への支援を行います。

また、平成28年度は事業間連携の強化と生産性向上対策・販売改革対策・資材コスト対策を総合的に進めるため、関係部門の職員をメンバーに食糧・果実・野菜花卉・TACで県域の推進チームを編成。各チームは関係課長が班長・副班長となり、県域TAC・JATACと連携して出向く体制・活動を強化し、生産・販売・購買に関する企画提案ならびに進捗管理を行います。また手取り最大化のモデルJAに対して、検証に基づく実践メニューの提案を行うこととしています。

(2) 県域機能強化による支援

中央会・JA愛媛県信連・JA共済連愛媛とともに「JAグループ愛媛担い手サポートセンター協議会」に参画し、営農・販売・購買・金融・共済の事業情報の共有と事業提案の活性化を図るとともに、TAC活動の強化に努め、担い手への総合支援を進めます。

このほか、JA全農えひめでは、JAの労働力支援活動をサポートするため県域での労働力支援体制の整備・事業化を図るとともに、新規作

物・重点品目・営農体系の実証（耕作放棄地の活用・解消）、愛媛みかん機能性食品表示制度の活用による付加価値向上、JA域を超えた広域集荷・選果体制確立の支援についても検討・取り組みを進めていくことにしています。

(3) TAC活動の強化とJAの人材育成支援

JAの会議やトップセミナーでの優良事例の提供・情報の共有化を通じてTACのステップアップを支援するとともに、TACの事業提案力・産地づくり人材育成研修の実施、JATACへの関係部門からの事業提案支援に取り組めます。

(4) 県産農作物の付加価値増大支援

残留農薬検査・生産履歴記帳による食の安全安心訴求、愛フード推進機構と連携した「えひめの食」企画広報による県産農畜産物消費拡大支援の継続、関係機関と連携した6次産業化の取り組み支援を行います。

以上をポイントに、JA全農えひめは今後3年間、「農業者所得増大チャレンジ事業」を耕種事業の柱と位置付け、JA・組合員と一体となり農家手取り最大化と愛媛農業の振興に取り組んでまいります。

THE

ねとどわーく

「愛媛産かんきつをPRしていただく」 2016愛媛みかん大使を募集

果実課

J A全農えひめは、「果樹王国えひめ」のみかん・伊予柑キャンペーンをはじめ愛媛産果実の消費宣伝活動に協力していただく『2016愛媛みかん大使』4人を募集します。みか



▲2015愛媛みかん大使の皆さん

ん大使による消費宣伝活動は昭和34年度から実施しており、今回が58回目（58代目）となります。

◆応募資格

- ① 愛媛県内在住の18歳以上（高校生は除く）の元気で明るく好感の持てる方。
- ② モデルなど特定の会社や団体等と専属契約していない方で、他のコンテストに選出されていない方。
- ③ 愛媛県産果実の消費宣伝キャンペーン等の活動に必ず参加でき、明朗・快活で表現力豊かな方。
- ④ 勤務先・学校等の理解と協力が得られ、愛媛みかん大使として年間活動できる方。

◆応募方法

- ① 所定の応募用紙または既存の履歴書等に必要事項を記入のうえ、サービス判程度の上半身の写真

を添えて、応募先まで郵送ください。

- ② 応募用紙は、県内J A・J A全農えひめ・リジエール松山・各テレビ局・愛媛新聞社・各大学・専門学校の受付等に置いてあります。また、J A全農えひめホームページからも印刷できます。
- ③ J A全農えひめホームページ「みかん大使募集」ページおよび携帯サイトからも応募できます。※応募書類・写真は返却しません。

◆募集期間

- ① 平成28年6月10日（金）～7月11日（月）（当日消印有効）

◆審査方法

- ① 事前審査（書類審査）
7月21日（木）
- ② 最終審査（面接審査）
8月10日（水）、リジエール松山で面接審査を行い、4人を選考。

◆任命式（8月19日（金））

関係者による任命式を行い、マスコミに発表します。

◆副賞ならびにプレゼント

- ① 愛媛みかん大使（4人）

- ② 委嘱料20万円を進呈します。
- ③ 最終審査出席者全員

書類審査に合格し最終審査に出席いただいた方には、交通費と愛媛の柑橘ジュースを進呈。

◆『愛媛みかん大使』の活動

- ① 任期
平成28年9月～29年8月末
- ② 活動内容（年間40日程度）
全国各地での表敬訪問、テレビ・各種イベント出演、試食宣伝キャンペーン等への参加（日当・交通費・制服一式を支給）。

【キャンペーン等スケジュール】

- 11月（みかん）
東京・大阪
- 2月（伊予柑）
東京・大阪・北海道他
- 4月
「オレンジデー」関連イベント

応募先・問い合わせ

〒790-8555

松山市南堀端町2番地3
J A全農えひめ果実課
愛媛みかん大使募集係

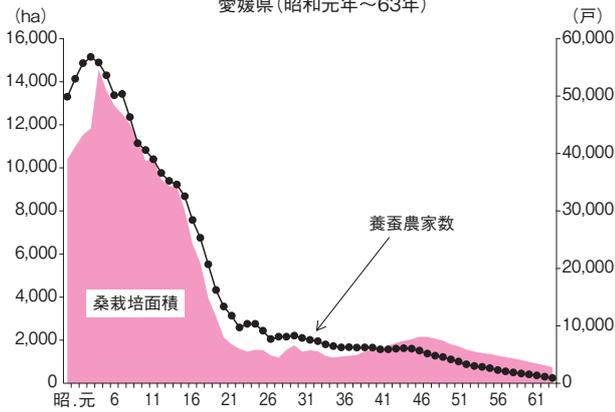
☎089-948-5763

【ホームページアドレス】
<http://www.eh.zennoh.or.jp>

統計BOX

GI登録でよみがえれ、「伊予生糸」 — 繭生産の累年統計から —

図1 桑栽培面積、養蚕農家数の推移
愛媛県(昭元年～63年)

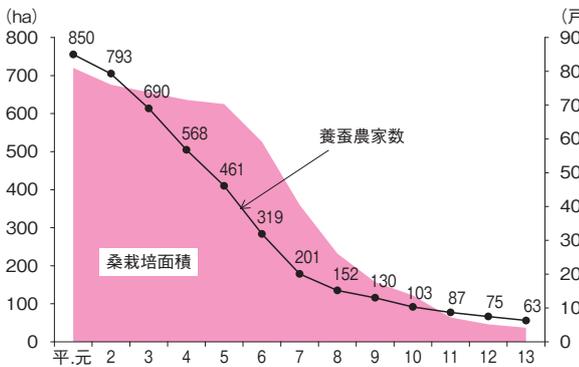


愛媛県で56,810戸、
14,570ha

6月には、童謡「赤とんぼ」に描かれる「桑の実」が熟れる頃です。昔、桑はお蚕さんを飼うためのごく一般的な作物でした。しかし、今では一部の地域に限られ、桑畑やお蚕さんを知らない若い方も多いと思います。

その養蚕関係のトピックスとして、今年、西予市の「伊予生糸」が地理的表示(GI)に登録されました。また、平成26年には群馬県の富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産となったのは記憶に新しいことと思います。今回は養蚕の歴史を少し覗いてみましょう。

図2 桑栽培面積、養蚕農家数の推移
愛媛県(平成元年～13年)



見出しの数字は、昭和5年の養蚕農家数と昭和4年の桑栽培面積です。当時、全国の収繭量(注1)は約40万t、愛媛県は1万1,000tあまりとの記録があります。2015農林業センサス結果によると愛媛県の販売農家数によると愛媛県の販売農家数は2万5,697戸ですから、その倍以上の養蚕農家が、昨年の水稲面積14,600haに相当する桑を栽培していたこととなります。

養蚕はこの頃をピークにその後急速に減少し、農水省統計部による都道府県別調査の最終年である平成13年には、全国で面積4,790ha、養蚕農家2,730戸、県内では同じく37ha、63戸となっています(図1・2)。愛媛県調べの最新のデータ(平成26年)では、県内で13・4

伊予生糸が28年2月、
地理的表示(GI)に登録

ha、15戸、収繭量は5tほどとなっています。

「特定農産物等の名称の保護に関する法律(地理的表示法(GI))」は、地域で長年育まれた特別な生産方法によって、高い品質や評価を獲得している農林水産物等の名称を品質基準とともに国に登録し、知的財産として保護するものです。今回、西予市蚕糸業振興協議会が申請し登録された「伊予生糸」は、県内産繭を生のまま、多条繰糸機を使って低速で繰糸するなど、特別な方法によって作られた高品質の生糸です。今後、「伊予生糸」は専用ラベルを貼って販売することができ、偽物は国の取り締まりの対象となります。

化学繊維の台頭等によって衰退してきた養蚕業ですが、最近ではバイオテク養蚕、バイオマテリアル、機能性食品への応用など、新局面への展開が期待されています。一方、西予市では、GI登録を機に県や関係機関等のバックアップを得て、今年新たに2名が養蚕に参入するそうです。伊勢神宮の式年遷宮の装束にも使われた高級生糸「伊予生糸」の伝統・文化も、永く守っていただきたいものです。

注1・収繭量・養蚕農家等が収穫した生繭の重量をいい、原則出荷時の重量。

中国四国農政局愛媛支局 統計チーム



目には見えない 不思議な縁に導かれて

平成14年、勤務先の会社が閉鎖。

さて、これから私は何をするか…。

思案の中、たまたま地区文化祭への出品募集用紙が舞い込み、公にしたことのない切り絵を初めて出展してみました。母が見に行ったところ、姉の中学時代の美術の先生・当時の西条市立南中の校長先生にばったりと出合い、弟である私の作品だと知ると南中の文化祭への参加を頼まれます。文化祭ではみんながわーわーと言う反響があったということでした。

しばらくして、先生から西条郵便局ギャラリーでの個展の声がかかりました。個展最終日に80歳くらいの男性が来場し、これはすごいと感心されます。その男性から産業情報支援センターの方、モノづくり集団・西条クラフトマンの紹介へと繋がっていきます。それまでは家で制作のみでしたが、西条クラフトマンの一員となり合同展の参加など、世に出て、販売もするようになりました。

平成17年。作品展が新聞に載り、NHKから取材依頼の電話がかかりま

す。突然NHKからなど考えられず、騙されていると思いつつも、来られたカメラマンの名刺を見て初めて、本当だった!と思ったりもしました。西条クラフトマンの一員として成龍酒造さんの蔵開きイベントに初参加。そこで緊張いっぱい、カメラ目線のNHK初出演(笑)となりました。

NHKを見た四国中央市の紙のまち資料館が、和紙を使う作品に興味を持ち、地元・西条市へ問い合わせるも私のことはわからず、さらにNHKへ問われ、資料館で展示をする流れとなりました。ちょうど寺院を切り絵にしていた時期で、テーマを四国霊場として開催。あいテレビの取材、他の施設からも声がかかるなど、繋がっていきます。

平成19年の成龍酒造さんの蔵開きで石鎚神社の作品を飾っていると、おかみさんが欲しいと言われます。会心の作であり販売用ではなかったのですが、思い入れのある神社なので是非、と熱望され、手放しました。このことが後にまた繋がっていくことになりました。

ひうち会館で四国霊場展の開催中

塩崎 剛

SHIOZAKI TUYOSHI

はさみ切り絵作家。その作風は、ハサミのみで心に描いたモノを下絵なしでひと繋ぎに切る「はさみの一筆切り」。一枚の紙に命を吹き込むが如きハサミ使い、芸術性に富む作品群をして「心の紙切り」とも称される。切り抜いた部分に背後から色和紙を重ね合わせて立体感や遠近感を出す手法で力強い存在感を放つ、世界に一点のみ作品となる。

昭和34年9月4日、西条市出身・在住。切り絵の原点は、小学校低学年で巨人の王貞治選手の一本足打法を切り、周囲が驚いたことから。平成15年西条市郵便局本局にて初個展開催。以後、東予地方を中心に展示会や切り絵教室などを開催している。愛媛民芸館会員、俳句美術館(ネット内)会員。

7月2日(土)~28日(木) 西条市立郷土博物館にて「歴史小説天正の陣のさしえ(はさみ切り)展」、7月5日(火)~19日(火) 大町会館にて作品展を開催。

▶種田山頭火の句とコラボの切り絵



に、東予地方の情報誌・月刊インタビューから取材を受けました。月刊インタビューは、豊臣秀吉の四国攻め・天正の陣の連載を予定され、挿絵を望まれます。それまで左右対称の切り絵が中心で、武将を切ったことはなく、困っていた時に良い材料となる西条祭りがありました。だんじりには武者絵が彫られています。参考にしながら切ることができました。連載期間は5年7ヶ月。偶然とはすごいものでいろいろ



▲とれたての野菜がモチーフの「家庭菜園2015」は平成27年秋季県展特選受賞。カラーでご紹介できないのが残念！

ろなことが起こります。

成龍酒造さんとは1、2年疎遠でしたが、東京から戻った息子さんから突然電話が入ります。先の、石鎚神社の作品にピンとくるものがあり、お会いしたいと。季節限定酒に合う故郷の四季風景をラベルにしたいと。そしてまた蔵開きにも参加するようになりました。平成24年秋の蔵開きで出店していた惣菜店・クックチャムさんと名刺交換。2週間後に野菜の切り絵を依頼されま

す。さすがに野菜は切ったことがありません。知人の画家を紹介するからと断りますが、是非とも切り絵で、と強く望まれ、重なりあい光が当たる野菜の切り絵を完成。飲食店・ばあばのお昼ごはんのオープンに飾られました。ばあばのお昼ごはんは北海道にも開店、私の作品も同行したようです。

平成25年、今治市のギャラリー遊さんから俳人・種田山頭火の合同展の声がかかりました。初めて山頭火を知り、俳句とその風景が融合する切り絵もまた初めて創りあげました。会場に元NHKのアナウンサーで俳人の八木健さんが来られ、私の切り絵に、面白い、次の開催は？ と大層興味のある様子です。年も押し迫った頃、八木さんが館長の萬翠荘で展示会をしませんかと声がかかり、それまで東予地方が中心でしたが、松山で初個展の運びとなりました。

私は能動的な性格ではないのですが、一つの転機から、切り絵で喜ばれ、つながり、切り絵の世界も広がる、不思議で面白い経験をしています。



▶花火の切り絵が涼を誘う夏限定、伊予賀儀屋「天正の涙」しずく嬢純米

●第2回「しずく媛」サミット

愛媛生まれの「しずく媛」の高品質生産と需要拡大を呼びかけ！

J A全農えひめ、産地 J A、愛媛県酒造組合、愛媛県などで組織する愛媛県米麦振興協会（会長：小越慎介 J A全農えひめ県本部長）は、愛媛県で育成された酒造用米「しずく媛」のブランド化に向けて、4月27日、松山市の J A愛媛で第2回「しずく媛サミット」を開き、収量・品質の安定と需要拡大を呼びかけました。

このサミットは、優良生産者表彰や生産振興の取り組み、新酒の紹介を通じて、生産者と酒造会社等との交流・連携を強化するとともに、広く情報を発信することにより、「しずく媛」の生産振興と需要拡大を図ろうと、昨年から実施しています。

今回は、「しずく媛」を使用している愛媛県と高知県の酒造会社、愛媛県、生産者・ J A・ J A全農えひめの関係者など約50人が参加。 J A全農えひめが需給状況や高品質生産の取り組みについて報告したほか、愛媛県農林水産研究所から「しずく媛」の高品質生産に向けたポイント、 J Aえひめ中央の高品質・安定化に向けた取り組み事例を報告。出席した酒造会社が新酒を紹介し、参加者による試飲や意見交換を行いました。

「しずく媛」は、平成19年に品種登録された愛媛県初の酒造好適米（酒米）。「愛媛の米から

おいしい愛媛の酒のしずくが生まれるように」という願いを込めて名付けられたお米です。現在、愛媛県内で21の蔵元が、このお米を使って統一銘柄酒「しずく媛」を販売しています。平成27



年産は54haで契約栽培し、約133 t を愛媛県内の酒造会社を中心に出荷しています。さらなる需要の拡大に向け、関係者が一体となって統一銘柄酒「しずく媛」の販売拡大に取り組んでいます。サミットに先立ち、最優秀賞の末光弘和さん（ J Aひがしうわ）など27年産で高品質・高収量をあげた「しずく媛」優良生産者を表彰しました。優良生産者は次の皆さん（敬称略・カッコ内は J A名）。

▽最優秀賞＝末光弘和（ひがしうわ）▽優秀賞＝酒井馨一（同）、宥新城生産組合（同）、徳山義恭（同）、谷口高則（同）、藤井省三（えひめ中央）、野中孝三（同）

●全農杯全日本卓球選手権ホープス・カブ・バンビの部愛媛県予選 全国大会出場をめざし少年少女が熱戦！

7月29日から神戸市で開催される全農杯全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）への出場をめざし、5月14日松山市北条スポーツセンターで、愛媛県予選会が開かれ、少年少女54人が出場しました。

この大会は、県卓球協会が主催する小学生対象の大会では最大規模を誇ります。男女別に小学6年生以下のホープスの部、4年生以下のカブの部、2年生以下のバンビの部の3クラスに分かれ、予選リーグと決勝リーグを戦って、男女各クラス2位以上の選手と特別推薦1人を加えた計13人が、全国大会への出場を決めました。

男子ホープスの部で優勝した徳田幹太さん（伊予つばさ Jr）は、昨年に続き同クラスを制し、小学3年生から4年連続の優勝を決めました。「全国大会では優勝をめざしたい」と副賞を手を力強く話していました。

J A全農えひめは、参加賞のほか、男女各クラス3位以上の選手に副賞として「えひめみかんいよかんジュース」とひめライス「愛媛県産にこまる」を贈呈。 J A全農は、少年少女たちの夢の応援と健康な身体が生まれるようにという願いを込めて平成25年から同大会に協賛。最

高峰の選手・大会の応援とともに、次世代の育成にも取り組むなど、日本卓球界の発展を支援しています。各クラス優勝者は次のとおり（カッコ内は所属）。

【バンビ】男子＝矢野友翔（常盤 HS クラブ）、女子＝山村 茉緒子（松山卓球教室）



▲ホープス男子の部優勝の徳田さん（写真左）、2位の西田有輝さん（中央・さくらエリートアカデミー）、3位の木塚陽斗さん（松山卓球教室）

【カブ】男子＝武智颯汰（ SC松山アカデミー）、女子＝篠原夢空（松山卓球教室）【ホープス】男子＝徳田幹太（伊予つばさ Jr）、女子＝大森もえ（OMAクラブ）

●愛媛県果樹同志会 第3回総会 会長に松浦喜孝さんを再任

愛媛県果樹同志会は、5月19日、松山市のJ A愛媛別館で第3回総会を開き、会長に松浦喜孝さん（西宇和青壮年同志会・再任）を選任した。

松浦会長は、「会員・関係団体と連携しながら、『チーム愛媛』『チーム同志会』として、愛媛の果樹農業を盛り上げる活動を進めたい。愛媛みかんは美味しいということを消費者に訴えるとともに、生産現場では高品質生産を基本に頑張っていきたい」とあいさつしました。28年度事業計画では、温州みかんの隔年結果是正対策と高品質安定生産対策を最重点課題に、生産対策や生産基盤の整備と経営改善、消費者交流による売れる商品づくり・PR活動、農政活動などの取り組みを確認しました。

また、TPPによる影響への不安・不満が払拭されていない状況を踏まえ、「持続可能な農業・農村の実現に向けた特別決議」を全会一致で採択。国会審議での説明責任と国際化が進展する中で将来を展望できる、息の長い農業政策の確立を求めました。

同志会は、平成26年5月、男女別だった同志会組織を合併して発足。県内7地区の同志会と3地区の女性組織で構成しています。

28年度のその他の主な役員は次のとおり（敬称略・カッコ内は所属同志会）。

▽副会長＝能田英文（えひめ中央果樹研究同志会・再任）、武内千恵（南予果樹同志会・再任）、一色百合子（えひめ中央女性果樹同志会・新任）
▽監事＝牛川慎吾（南予果樹同志会・再任）、石橋仁志（えひめ中央果樹研究同志会・再任）、岡田孝子（南予果樹同志会・再任）、二宮保美（西宇和女性果樹同志会・新任）



▲（写真左から）武内副会長、松浦会長、能田副会長、一色副会長

●愛媛県農業振興連絡協議会 理事会 県行政とJ A全農えひめが連携強化し農業振興を！

愛媛県農業振興連絡協議会は、4月26日J A愛媛で平成28年度の理事会を開き、28年度の活動計画を決めました。

同協議会は、県行政とJ A全農えひめが、連携し愛媛農業の振興と農家経済の安定に寄与することを目的に、昭和32年に発足。事業別に9専門部会を設置し活動しています。

理事会には、J A全農えひめの小越慎介県本部長、県農林水産部の玉田光彦部長など、県・

J A全農えひめ・J A愛媛中央会の関係者約30人が出席。専門部会9部会の27年度の活動報告、27年度の計画を決めたほか、J A全農えひめの「農業者所得増大チャレンジ事業」、愛媛県の「愛媛農業振興基本方針2016」について、取り組みを紹介しました。

また、「担い手確保に向けた連携強化」をテーマにフリートーキングを実施し、意見交換しました。

●新茶祭り 県内4産地の新茶をアピール

愛媛県茶業振興協議会とJ A全農えひめ野菜花卉課は、5月21日と22日の2日間、伊予市のファーマーズマーケットいよっこらで、県内4産地の新茶を集め、「新茶祭り」を開き、試飲を交えて愛媛の新茶の美味しさをアピールしました。

このイベントは、新茶シーズンにあわせて毎年開いており、今回は会場を変更して、新宮茶・久万茶・宇和茶・鬼北茶を販売しました。特設コーナーでは、J AとJ A全農えひめの担当者、J A全農えひめモニターレディが、4産地の新茶を試飲してもらいながら、産地ごとの特徴やお茶の入れ方を説明してPRしました。試飲した方は、「毎年新茶を楽しみにしています」「今年初めての新茶、香りも良くて美味しい」「甘

くておいしい」などと話しながら好みの産地の新茶を購入していました。

今年産のお茶は、J A松山市（久万茶）、J Aひがしうわ（宇和茶）、J Aうま（新宮茶・富郷茶）、J Aえひめ南（鬼北茶）で計34.9ha（前年比94%）で栽培。収穫量は前年比92%の24 tを見込んでおり、数量は前年より少ないものの、渋みと甘味のバランスが良く品質は上々です。



●平成28年産夏秋野菜出荷協議会

企画販売とテレビ番組による情報発信等を強化

～JA全農えひめとJA愛媛野菜生産者協議会が、5月から毎月第4金曜日、テレビ愛媛の「つながるワイドほ～なん。」内で、新たに「食べごろ！愛媛の食材！旬感！えひめ」を放送開始。

J A全農えひめ野菜花卉課は、4月19日、松山市のJ A愛媛別館で「平成28年産夏秋野菜出荷協議会」を開き、主力12品目の販売基本方針を決めました。

12品目の栽培面積は、前年比100%の約205.2ha、共販量は前年比112%の1万1,428tを計画しています。

基本方針では、農家生産者の手取り最大化と青果物売場の確保に向けて「農業者所得増大チャレンジ事業」を展開し、販売面では①企画販売による販売力の強化（目標73企画・金額2億3,784万円。最終販売先の見える青果用、加工業務用の取引拡大）、②愛媛県産青果物の総合販売対応（複数品目販売先の明確化と取り組み強化）、③販売促進および消費宣伝活動の実施（7～9月を最重点期間に、協力店舗への集中的・効果的な販促展開）、④広報宣伝活動（「えひめの食」企画と連携した広報番組やメディアを通じた情報発信）を柱に取り組みます。

品目別では、きゅうりが「きゅうりプロジェクト」による愛媛県産の売り場と安定価格の確保、等階級発生比率に応じた企画販売の実施。トマトは週間値決め販売等による企画販売の拡大などに取り組みます。

なお、5月27日から毎月第4金曜日15時50分～放送中のテレビ愛媛の「つながるワイドほ～なん。」内で、新コーナー『食べごろ！愛媛の

平成28年産 夏秋野菜出荷計画表

(単位：ha, トン, %)

| 品 目 | 出荷計画 | | 前年比 (%) | |
|--------|-------|--------|---------|-----|
| | 面積 | 共販量 | 面積 | 共販量 |
| トマト | 30.4 | 2,468 | 97 | 112 |
| きゅうり | 82.6 | 5,498 | 103 | 117 |
| 枝 豆 | 12.8 | 78 | 107 | 124 |
| アスパラガス | 19.0 | 230 | 97 | 120 |
| ピーマン | 19.9 | 1,041 | 101 | 121 |
| ミニトマト | 6.2 | 233 | 94 | 91 |
| 生椎茸 | | 374 | | 102 |
| インゲン | 9.8 | 83 | 100 | 92 |
| 伊予なす | 12.9 | 963 | 94 | 105 |
| 松山長なす | 4.5 | 223 | 96 | 101 |
| 絹かわなす | 2.5 | 210 | 81 | 80 |
| メロン | 4.6 | 27 | 92 | 106 |
| 合 計 | 205.2 | 11,428 | 100 | 112 |

食材！旬感！えひめ』（通常17時台に放送）で、J A全農えひめとJ A愛媛野菜生産者組織協議会が連携し、えひめの旬食材（野菜・果物）の魅力を伝えていきます（第1回の5月27日はJ A愛媛たいききゅうり部会の藤田幸男さんが出演）。また、FM愛媛「旬感！えひめチュレ」（毎月第1・第2金曜日17：45～）でもPRを行います。

●平成27年産愛媛県柑橘類販売反省会

27年産総括を踏まえ市場と販売対策を協議

J A全農えひめ果実課は、5月17日、松山市のJ A愛媛別館で、「平成27年産愛媛県柑橘類販売反省会」を開き、J Aの販売担当部長、京浜・関東と関西地区の市場で組織しているマル媛会の会長が出席し、品目別に28年産販売に向けて27年産の販売総括を踏まえて出された市場からの要望等を中心に協議・検討しました。

J A全農えひめの関岡光昭副本部長は、「温州みかんをはじめ表年ではあったが、天候不順の影響により生産・出荷計画量を大きく下回った。産地として高品質安定生産と精度の高い情報発信が必要だ」とあいさつ。

温州みかんは、極早生みかんの残荷も少ない中で早生みかんの販売がスタート。食味が良好でスムーズな販売で推移。各産地が出揃い市場残荷の増加や、11月中旬から降雨や気温高の影響でイタミ果やクレームの増加はありましたが、全国的に数量が少なく、酸抜けによる食味評価の高さもあり、価格は高値で推移。12月も不安定な天候が続き、柿・りんご等の競合品目も少なめで、中旬以降は全国的に出荷量が大き

く減少し、不足感が強まる中、高値で推移しました。

年明け以降、伊予柑など中晩柑類は、温州みかんをはじめ輸入を含めて競合品目が少ない中、食味良好で、全般に数量減の中、単価高で推移しました。

27年産は全般に前進出荷傾向で、温州みかんではイタミ果、中晩柑類は寒風害によるスレ・キズ果など品質低下が課題として残りました。

市場からは、「早生みかんは出荷スタート時の価格・品質の追求」「伊予柑・ポンカンには年明け販売の柱となる品目で数量維持を」「紅まどんなは生産者間の品質のバラつきが問題。生産者には愛媛果試28号ではなく、紅まどんなを作る意識で生産してほしい」「甘平は内容も安定してきた。計画的な出荷と大玉のス上がり対策を」「清見が思った以上に数量がなかった。天候不順による数量・品質への対策を」といった声が出されました。今後、こうした意見・総括を踏まえ、28年産のスムーズな販売につなげることにしています。

なんでもBOX

●第51回えひめ花まつり 花と緑いっぱいのイベント開催

5月3日・4日の2日間、花に親しんでもらい花の消費拡大につなげようと、東温市の愛媛県農林水産研究所農業研究部花き研究指導室で、愛媛県などが主催して第51回「えひめ花まつり」が開かれました。花と緑いっぱいの会場では、花の展示やフラワーオークションなどが行われ大勢の来場者で賑わいました。

5月4日には、東温市農村環境改善センターで第51回「えひめ花まつり花のコンクール」表

彰式が行われ、デルフィニウムを出品してあいテレビ社長賞を受賞した上田武志さん（JA愛媛たいき）らが表彰されました。



▲上田さん

▲デルフィニウム

●いよっくら11周年感謝祭 熊本地震被災地支援チャリティーバザー開く

JAえひめアイパックス(株)が運営するファーマーズマーケット「いよっくら」は、5月21日と22日の2日間、「11周年感謝祭」を開き、伊予牛「絹の味」モモ肉の丸焼きや豚肉1日3頭分の半額販売、ガラポン抽選会などのイベントを実施し、大勢の買い物客でにぎわいました。

また、会場内の特設テントでは「熊本地震被災地支援チャリティーバザー」を開きました。この取り組みは、「いよっくら」と出荷会員で組織する運営協力会が、「被災地の皆さんのために自分たちにできることをやろう」と、協力会総会などを通じて会員に日頃販売している商品の出品を呼びかけて実現したものです。会員の多くが賛同し、1人10品程度の出品呼びかけにもかかわらず、多い方は50点ほど出品。玉ねぎ、なす、ソラマメなどの新鮮な青果物やジャム・うめ飴などの加工品が並べられたコーナー

では、「チャリティーバザーなのでお客様が値段を決めてこの箱に代金を入れてください」という担当者の呼びかけに応じて、購入者が思い



思いの代金を義援金箱に入れていました。売上金全額14万934円は、被災者への義援金として日本赤十字社に寄付することになっています。同店の松田修店長は「出荷会員とおお客様の心のこもったお金なので、被災者支援に役立ててほしい」と話しています。同店は、5年前の「東日本大震災」の際にも同様のチャリティーバザーを開催しています。

●「いよっくら」運営協力会総会 来店客数・売上高とも前年上回る

JAえひめアイパックス(株)ファーマーズマーケット「いよっくら」運営協力会は5月10日、ウエルピア伊予で平成27年度の総会を開き、28年度計画でいよっくらの魅力を広く発信するとともにお客様との交流をより深めていくことを決めました。

平成27年度は、来店客数・売上高とも前年を上回る実績を上げており、28年度も「消費者が直売所に求めるものは何か」をお客様目線とらえ、出荷会員と店舗が一体となって信頼される高品質の安全・安心な商品提供、日常的なサービス企画やミニラジオ番組を通じた情報発信、食農教育の取り組み等を通じて地域での存在感

を強めていくことを確認しました。28年度はお客様の利便性向上に向けて、クレジットカードによる代金決済を始めることにしています。



▲あいさつする栗原会長ほか役員

役員改選を行い、栗原和裕会長（新任・JA松山市）以下新役員体制を決めました。



イベント告知

レインボーフェスティバルinえひめ2016は、
10月29日(土)アイテムえひめで開催します！

J A全農えひめとグループ会社は、10月29日(土)、松山市大可賀のアイテムえひめで、生産者と消費者の交流イベント「レインボーフェスティバルinえひめ2016」を開催します。

■日時：平成28年10月29日(土)9：40～15：30
■場所：アイテムえひめ（松山市大可賀）

この催しは、全農グループの経営理念「生産者と消費者を安心して結ぶ懸け橋」に基づき、「新鮮で安全・健やかな食文化の創造」「生産者と消費者のネットワーク」をコンセプトに、県内J Aや各種団体のご協力により、毎年開催している県内J Aグループの一大イベントです。

会場では、J A・関係組織による県内各地の農畜産物・特産品の即売、食と農の体験イベント、キャラクターショーなどを行う予定です。

県内のJ A・関連団体には、8月以降、出展等をご案内する予定です。多数の出展・参加をお願いいたします。



編集後記

★5月中旬から6月上旬にかけて、中予～東予地方では黄金色に色づいた特産のはだか麦（裸麦）が収穫されます。はだか麦は、昨年まで愛媛県が29年連続生産量日本一。初夏に向けての風物詩でもあり、5月18日の松前町での収穫撮影にはテレビ・新聞9社の取材がありました。味噌や麦茶・焼酎のほか、最近ではパンやラッシーなど新たな商品も売り出され、注目されてきています。相乗効果で「愛媛のはだか麦」の知名度向上・商品力アップにつなげたものです。

(正直)

●今年もみかんジュースの季節が来ました。暑く
なると恋しくなります(笑)。さっそく「えひ
めの柑橘と国産にんじん」を飲んでみました。
思ったよりにんじんがさわやかで美味しかった
です。今年はこれですね！
J Aグリーンえひめが新しくなりましたね。と
ても新鮮な感じがしました。
(松山市・山田 祥江さん)

●先日、県外の友人が訪ねてきた時、とても喜ん
でいただいたお土産が、「いよかんつぶつぶ
ジュース」でした。何より、みかんジュースの
種類の多さに驚いていました！ 普段子
どもたちに飲ませているボンジュースですが、
とてもおいしく、フレッシュジュースを飲んで
いることをありがたく思いました。今、コンビ
ニやスーパーなどでジュースが沢山増えてきて
いますが、やはり愛媛のみかんジュースはフ
レッシュであたたかいジュースだと思います。
(四国中央市・曾根 知佐土さん)

●今年もみかんジュースの季節が来ました。暑く
なると恋しくなります(笑)。さっそく「えひ
めの柑橘と国産にんじん」を飲んでみました。
思ったよりにんじんがさわやかで美味しかった
です。今年はこれですね！
J Aグリーンえひめが新しくなりましたね。と
ても新鮮な感じがしました。
(松山市・山田 祥江さん)

●今年、職員同士の絆も深まり、出てよかった
と思います。来年も頑張ってください。
(今治市・森 由佳さん)

●今年、東予地方特有の局地風「やまじ風」が非
常に強く、また多く吹いています。低気圧が朝
鮮半島あたりを通過すると吹きますが、今年
特にひどく、農産物や家屋に被害をもたらして
います。なので、当地は里芋「伊予美人」、山
の芋の栽培が発達しました。昔から、またこれ
からも「やまじ風」とは永い付き合いとなりま
す。
(四国中央市・三好 昇さん)

●八木健さんは、NHKアナウンサー時代から私
の若い頃から「ずつとファン」でした。現在もい
ろいろな場所でご活躍されていて、とてもうれ
しく思います。これからもお元気でいらして
ください。
(松山市・松本 恵子さん)

●酒蔵めぐりを読んで、お酒の名前は聞いたこと
がありますが、酒蔵が意外にも近くにあること
を知り、寄ってみたいと思いました。実家の母
がお酒が好きなので。
今年初めて蜜を見つけました。コンクリートの
水路で、頑張って光っていました。
(西条市・瀬川 憲子さん)

今月のクイズ

2016愛媛みかん大使を募集中です。愛媛み
かん大使は、今回で何代目になるでしょうか？
「第〇代目」

プレゼント

クイズに正解した方の中
から抽選で、図書カード
1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの
答えと本誌に対するご意
見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成28年7月20日(当日消印有効)

発表

「あぐり〜ど」8月号で発表します。

当選者発表

4月号の答えは「にんじん」でした。
たくさんのお便りありがとうございました。
厳正な抽選の結果、次の10人の方に図書カード1,000
円分をお送りします。

| | |
|----------------|--------------|
| 小林 寛子さん(松山市) | 岡田 隆義さん(今治市) |
| 寺尾 智美さん(四国中央市) | 平井 杏佳さん(今治市) |
| 沖中さわえさん(大洲市) | 中平 寛子さん(松山市) |
| 宝利 礼子さん(四国中央市) | 毛利 徳子さん(西予市) |
| 米花佐智子さん(八幡浜市) | 越智 淳子さん(西条市) |



▶ (左後) 豚肉カレー揚げ、(右) 豚肉の新生姜巻き蒸し、(左前) 豚肉キムチ和え



今月の素材
豚ロース肉
(ふれ愛・媛ポーク)

安心のメイドイン愛媛で
濃厚なうまみとコクを味わおう

指導/学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大佐古 正子先生

豚キムチ和え

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約201kcal

| | |
|----------------|-------|
| 豚ロース肉(しゃぶしゃぶ用) | 160 g |
| 豆モヤシ | 1 パック |
| ニラ | 1 束 |
| キムチ | 150 g |
| 大葉 | 8 枚 |
| ゴマ油 | 大さじ1 |
| 醤油 | 大さじ2 |
| 酢 | 大さじ2 |
| 白煎りゴマ | 大さじ1 |

〈作り方〉

- ① 豚肉は食べやすい大きさに切り、茹でて冷水にとる。
- ② ニラは5cmに切り、茹でて冷水にとる。豆モヤシも茹でて、ザルにあげる。
- ③ ボウルに①②を入れ、④とキムチを加えてサックリと混ぜ合わせる。
- ④ 器に盛り、刻んだ大葉を飾る。

豚肉カレー揚げ

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約245kcal

| | |
|------------|--------|
| 豚ロース肉(薄切り) | 240 g |
| 酒 | 大さじ1 |
| 砂糖 | 大さじ1 |
| ④ 醤油 | 大さじ1 |
| 生姜(すり卸) | 小さじ1 |
| ニンニク(すり卸) | 小さじ1/2 |
| 小麦粉 | 大さじ5 |
| カレー粉 | 大さじ1 |
| シシトウ | 8 本 |
| 揚げ油 | 適量 |

〈作り方〉

- ① ボウルに④を入れ、よく混ぜて豚肉を漬ける。
- ② 小麦粉とカレー粉を混ぜ合わせて①につけ、170℃の油で揚げる。
- ③ シシトウを素揚げにする。

豚肉の新生姜巻き蒸し

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約229kcal

| | |
|--------------|-------|
| 豚ロース肉(生姜焼き用) | 240 g |
| 新生姜 | 100 g |
| 人参 | 1/2本 |
| 酒(半量程度は水でも可) | 約80cc |
| ④ 〈酢味噌タレ〉 | |
| 麦味噌 | 大さじ3 |
| 酢 | 大さじ2 |
| 砂糖 | 大さじ2 |
| 溶き辛子 | 小さじ1~ |
| レタス | 4 枚 |
| ミニトマト | 8 個 |

〈作り方〉

- ① 新生姜、人参は千切りにする。
- ② 豚肉を広げ、①を巻きつける。
- ③ ボウルで(酢味噌タレ)を混ぜ合わせる。
- ④ フライパンに②の巻き終わりを下にして並べ、②が1cm浸かる位の酒を入れ、フタをして弱火で約8~10分蒸す。
- ⑤ 器に盛り、レタスとミニトマトを飾り、③をかける。





熱中症対策に!

塩と夏みかん

SALT & NATSUDAIDAI

使った
伯方の塩® 使用

国産夏みかん
使用

カロリーオフ
アイソトニック飲料

冷やしても
凍らせてもおいしい

栄養成分表示(100mlあたり) エネルギー 19kcal / たんぱく質 0g / 脂質 0g / 炭水化物 4.5g / ナトリウム 53mg / 食塩相当量(490mlあたり) 0.6g



株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地

TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

http://www.ehime-inryo.co.jp

(通販専用) http://www.pom-j.com

全国発送
承ります。

「愛」が隠し味。



**えひめみかん
いよかんジュース**
参考組合員価格
2,420円(税込)
250g×30本/ケース

愛媛産の温州みかんといよかんの柑橘果汁をブレンドした飲みやすく体にやさしい果汁100%の飲みきりサイズの缶ジュースです。



**えひめみかんいよかん
ジュース**
参考組合員価格
2,080円(税込)
1,000ml×8本/ケース

愛媛産の温州みかんといよかんの柑橘果汁をブレンドした飲みやすく体にやさしい果汁100%ジュースです。



**えひめつぶみかん
いよかんジュース**
参考組合員価格
2,980円(税込)
1,000ml×8本/ケース

愛媛産の温州みかんといよかんの果汁にみかんの果粒(つぶつぶ)を加えた飲む果実感の果実分100%ジュースです。



**愛媛の味わい
柑橘100**
参考組合員価格
2,120円(税込)
1,000ml×6本/ケース

愛媛県産の不知火・いよかん・その他をブレンドした爽やかな味わいです。



**えひめの柑橘と
国産にんじん**
参考組合員価格
2,570円(税込)
1,000ml×8本/ケース

人参の甘さが生きた、愛媛県産の柑橘と国産人参のやさしい味わいです。



**愛媛の
不知火50**
参考組合員価格
2,160円(税込)
1,000ml×8本/ケース

愛媛県産の不知火を使用した果汁50%飲料、濃厚な甘味と程よい酸味です。

※宅配運賃について ●同一受注同一送付場所です5ケース以上の場合は配送運賃は無料です。 ●5ケース未満の場合は、ケース毎に500円(税込)加算します。

愛用運動期間 4月1日～8月31日

主催団体／JAグループ愛媛農畜産物消費拡大運動推進本部・県内各JA・JA愛媛中央会・JA全農えひめ
協賛団体／JAえひめ女性組織協議会・愛媛県農協青壮年連盟・愛媛県果樹同志会・愛媛県果実生産出荷安定協議会・
愛媛県茶業振興協議会・JA愛媛県信連・JA共済連愛媛・JA愛媛厚生連・愛媛県酪連・JA愛媛施設連



環境に配慮した植物油インキを使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。